

仕事探しなら、女性専用窓口へ

厚生労働省は女性の就労支援に力を入れ、特に子育て中の女性の再就職支援を重点目標とした「マザーズハローワーク」を開設。現在は13か所ですが、全国「ハローワーク」内に開いた156の「マザーズコーナー」でも、同様のサービスを行っています。

「マザーズハローワーク東京」

安心して相談できる
ママにうれしいサービスが充実

JR渋谷駅近くの「マザーズハローワーク東京」には、子育て中の就職希望者のためのマザーズコーナー、それ以外の女性求職者のためのレディースコーナー、さらには求人検索コーナーや子ども連れ求職者のためのチャイルドコーナー、授乳室も常設されています。来訪者は一日平均200〜230人。そのうちの30〜35人が新規求職者です。「6割が30代と40代の女性たち」とマザーズハローワーク東京室長の田口貴

代さん。

「利用者の半分は3歳以下の子どもを抱えている人たちですが、以前働いていた人ほど再就職への意識が強く、しかも復職希望の時期が早くなっています。これは個人的意見ですが、社会の動きも早く、収入を得たいというニーズ以外に、子どもと向かい合っている日々に閉塞感を感じている女性も多いのかもしれない」と田口さん。

担当制による高い就職率
パートもキャリアにする

「マザーズ」の特徴的なサービスに、三か月を目処にする担当制の就職相談があります。求職者は担当員との継続相談によって計画的な就職準備ができ、相談員は求職者のニーズに合った情報提供ができることが高い就職率につながっています。登録者全体での就職率が4人に1人なのに対して、相談利用者の就職は7割近く。相談員は4人だけなので、子育て中で早く就職したい人が優先です。



子ども連れも安心、チャイルドコーナー(マザーズハローワーク東京)

働く時間は…」などを優先していくと、雇用期間や正社員などの条件は次の段階になってしまいます。でも、「パートでも就職すれば、将来的に次のステップアップのためのキャリアになる」と田口さん。

昨年、「マザーズ」での求人は15%も増えていますが、託児所があるのは医療や介護関係など夜勤のある職場。求人と求職にはミスマッチがあるようです。

「ハローワークには生活費のことやDVなど人間関係に関する問題を抱えている人も来ます。求職活動にはパートナーがいる。それ以外の問題が多いと集中できません。ケースによっては福祉事務所や女性支援機関に紹介することもあります。ひとりで悩んでいては解決しない。働こうと思ったら、ぜひいろいろな社会資源を利用して欲しい」と田口さんは激励します。

求職者の6割近くができるだけ安定した職場で長く働きたいとフルタイムを希望しますが、実際の就職は逆。パートが6割以上になるそうです。求人側の条件と刷り合わせていくうちに、漠然とした自分の希望や状況が次第に見えてきて、「残業は無理。週に5日で3時か4時まで。今はとりあえずパートかな」となるケースが多いのです。「早く就職したい、職場は家の近く、

就職相談の他にも①再就職準備、②応募書類対策、③面接対策、④ビジネスセミナーなどの各種セミナーやパソコン教室(いずれも無料、託児つき)を年間通して開講しています。